

平成23年度 応募状況

分類	サービス・エリア	A 研究	B1 研究	B2 研究	合計
モノの流れに関するシステム	交通／サプライチェーン	5	0	0	5
	水	0	2	0	2
	食品／製品	4	2	0	6
	エネルギー／環境	4	0	0	4
	情報技術	9	2	0	11
人の行動に関するシステム	都市	11	1	0	12
	流通／ホスピタリティー	11	1	1	13
	金融	0	0	0	0
	ヘルスケア	19	2	2	23
	教育／ビジネス	5	0	0	5
統治するシステム	公共サービス	5	7	3	15
共通	産業共通・基盤	1	6	2	9
合計		74	23	8	105

<総評>

プログラム総括
土居 範久
慶應義塾大学 名誉教授

平成22年度から開始された「問題解決型サービス科学研究開発プログラム」は、「サービス科学」の研究基盤を構築すること、および研究成果をさまざまなサービスに活用し社会貢献をするために有効な技術・方法論などを開発し、「サービス科学」の研究者・実践者のコミュニティの形成に貢献することを目指しています。また日本ではなじみの薄い「サービス科学」の研究開発プログラムを構築するために、対象とする問題解決プロジェクトのイメージ、基礎となる研究エレメントなどの議論から行いました。平成22年度の採択案件は、サービスの基礎理論、サービスマネジメント、サービス工学に関わるものであり、A. 問題解決型研究2件、B. 横断型研究2件、および企画調査4件の計8件でした。本年度の公募では、サービスの理論構築を強化するため、B型研究（横断型研究）において人文・社会科学を軸足に置くアプローチも推奨するなど、幅広い分野の応募を呼びかけました。

これに対し、全国の大学・研究所・企業・NPO法人などから、105件（A. 問題解決型研究74件、B. 横断型研究31件）の応募を頂きました。昨年に引き続きヘルスケア関連の提案が最も多く、この分野への関心の高さがうかがえました。また、交通・水システムや情報技術関連の提案の割合が増加しました。研究代表者の研究領域では、理工学分野の提案の割合が減少し、総合・複合領域の提案が増加しました。従来の科学研究と異なり「サービス科学」は、既存のサービスに科学的アプローチを導入してサービスの効率化・最適化を図るだけでなく、理工学分野とマネジメント・マーケティング・文化人類学などの人文・社会科学分野を融合し、サービスの現場と協業することにより、サービスに関する科学的な概念・理論・技術・方法論の構築を目指すもので、選考会ではこれらの観点を注視しました。幅広い分野から興味深い提案がありましたが、サービス科学の研究課題の記述が十分ではなく、研究計画が基盤の開発に止まっているもの、研究開発の対象とするサービスシステムの関与者からのコミットメントが不明確であるもの、学術的な先行研究の調査やサービス領域の先進事例についての調査が不十分であるもの——などが依然見受けられました。

採択された提案は、水システム、公共サービスなどを対象にしたサービスの基礎理論、サービスマネジメントに関わるもので、A. 問題解決型研究2件、B. 横断型研究3件の計5件となりました。採択課題が「問題解決型サービス科学研究開発プログラム」のモデルケースとなるように、マネジメントチームのメンバーと研究実施者が一体となってプロジェクトの推進に取り組んで行く所存です。また、「サービス科学」コミュニティの一層の拡充のため、本プログラムの情報発信に努めるとともに、関係各位との議論を通じ「サービス科学」構築のために尽力していきます。